

を問う



勝部 博史

伯耆町二年の歩みと今後の展望 行政改革と財政基盤強化に努める

勝部 合併の目的は、分権時代の地域の一体整備と行財政能力の強化を図ることにあつたが、その効果、反省点など、どのように認識し総括するか。

町長 財政的には地方交付税合併特別加算措置で約三億五千万円の増収になり、建設事業は、継続事業と計画していた十七年度事業が予定通り着手できた。

またCATV、ホームページなど情報化の推進、学校施設整備の推進、水道施設の統合などインフラ整備も効果として挙げられる。

行政の人的、事務能力は十分な職員数により、各職員の専門性が高まつた。

反省点には、役場の組織、機構で課の増設により意図する政策の意思が

職員に十分に浸透しなかつた。

勝部 三位一体改革により地方分権も最終的局面と思うが、国・県の支援にどのよう対応するか。現状はどうか。

町長 今後地方交付税が焦点となり、本格的な地方への移譲は十九年度当初予算からである。

現状では本町の一般会計予算の四〇％を地方交付税が占めている。

あらゆる機関や機会です、財源調整と財源保障について要望している。

十八年度当初予算は、経常経費削減をおこない財政基盤の強化と財源の確保に努める。

勝部 行政改革の徹底をし、特に課の統合が有用と思うが。

町長 行政システム、課の統合を含めて検討して

広域ごみ焼却施設

勝部 広域可燃ごみ焼却施設の建設計画に対して建設の見直し、米子市などの既存の施設を活用する意見があるが。

町長 伯耆町清掃センターの延命化はどうか。

勝部 建設計画は当初の

通りである。しかし境港市から再検討の意見が出され、検討されている。

広域施設が二十三年に完成の予定であり、本町の施設もこれまで維持したい。



伯耆町清掃センター

まちづくり計画

勝部 合併協議事項の厳守と合併まちづくり計画の実現は最重要課題である。総合計画に合わせ計画の変更、順位決定など町長の強力なるリーダーシップを期待する。

町長 合併協議会で策定された「まちづくり建設計画」は概ね実現できる見通しである。

新たな農業政策

勝部 新たな農業政策、経営所得安定対策大綱が決まり十九年度から実施されるがどうか。

町長 農業者、農業団体が主体に生産調整を行う新システムで、認定農業者、特定農業者団体への重点的支援は必要であるが、この制度で本町の農業が受けるメリットは少なく大きな課題となる。